

幸区区民会議 第6回専門部会A「安全・安心・すこやか部会」

開催日時 平成19年3月1日(木) 午後6時00分~7時45分

会場 幸区役所プレハブ会議室

参加委員

専門部会A委員 手塚善雄部会長、末兼卓副部会長、荒井康男、大久保芳城、小林豊、
綱川幸子、萩原保夫、葉山直次(欠席:青山一、安岡信一)

専門部会B委員 庄司佳子、菅野勝之

事務局(総務企画課) 大八木総務企画課長、高橋主幹、北谷主査、上松職員、
吉田職員

(株)CSK 福田研究員 (以上 16名)

次第 1. 第5回企画運営部会の概要

2. 平成18年度幸区区民会議中間報告書(案)について

3. 「健康でいきがいを持てる地域づくり」について

4. その他

(1) 健康づくりふれあい講演会について

(2) 幸区地域防災計画(案)について(情報提供)

(3) 区民アンケート速報結果の全戸配布について

開会

本会議の情報公開に関する委員の了承。

次第、配布資料の確認。

1. 第5回企画運営部会の概要

第5回企画運営部会(2月23日開催)の結果について、末兼副部会長から報告があった。特に質問はなし。

2. 平成18年度幸区区民会議中間報告書

事務局(北谷)が「平成18年度幸区区民会議報告書」の概要について説明した。また、資料2、資料3について説明し、意見交換を行った。

北谷(事務局) 今後の流れは、本日、中間報告書の提言内容、表現について意見をもらい、B部会を経て、3月9日には確定したい。翌週の12から16日の間で、葉山委員長、庄司副委員長から区長に報告書を渡してもらおう。

手塚 第1章の提言内容について意見をもらいたい。自宅で読み、内容はわかっていると思う。問題がなければ、これでよいか。

小林 提言4の9ページに、「次善の策」の“事前”ではないか。

北谷 “事前”で修正する。

末兼 はじめに「中間報告書」とある。これは平成18年度の区民会議の報告書である。中間報告書ではなく、報告書でよいのではないか。

北谷 平成 18 年度の報告書であり、第 1 期区民会議における 1 年目の中間報告であるという位置づけを明確にする。

末兼 「はじめに」の最後の行「報告してまいります」はへりくだった言い方なので、区民会議の位置づけにもよるが、「報告を行います」でよい。事務局としては当たり前の言い方かも知れないが、われわれとしては違和感がある。

手塚 事務局に直してもらおう。全体の表現と区民会議の位置づけにあったまとめの言葉でよい。

区民会議の流れについてはどうか。参考 1「区民会議の概要」、参考 2「幸区のあらまし」も何かお気づきがあれば発言いただきたい。

末兼 企画運営部会で、これだけの報告書を短時間でまとめ素晴らしいという意見が出た。ありがたいことだと思っている。

小林 43 ページの中ほどの、「読み聞かせ運動の推進」「大体」は誤字。

北谷 “大体”が“団体”です。訂正します。

小林 他に誤字はないと思うが、ざっと読んだので再度チェックする。

手塚 もし帰ってから気づいたら、またご指摘ください。

資料 3 については、この文章はこれでいいと思います。

他に意見がないようなら、この専門部会で確認をいただき、9 日までに報告できるようにまとめたいと思う。12 から 16 日の週に正・副委員長で報告書を区長に渡すことになっていますが、よろしいでしょうか。

一同 了承。

手塚 以上の流れで進めたいと思うので、よろしく願いしたい。

3. 「健康で生きがいを持てる地域づくり」について

事務局（高橋）が資料 4 に基づき、「健康で生きがいを持てる地域づくり」について説明し、意見交換を行った。

手塚 最初に、視察の実施について、どんなところを視察したらいいか意見をもらいたい。

末兼 各委員で健康づくりをしている団体があると思うので、3 月、4 月にこういうことをするという情報を出してもらおう。部会 A、B を含めて出してもらい、健康 21 も踏まえて、視察するのがいいのではないか。

手塚 行事を対象に視察する考え方と、日常的な活動を視察する考えがある。行事は少ない。いつもやっている事業なら、かなりこちらの都合で日程を選ぶことができる。

綱川 3 月、4 月になると、行事はほとんど終了する。先日 25、6 日に会長研修があり、18 年度の事業はすべて終了し、定期総会に向けてまとめをする時期だ。区内に老人クラブは単位クラブが 83 ある。単位クラブごとに毎月 2 回定例会を持っている。毎月 1 回は理事会を開催している。理事会の話し合いを見たいのか。講演会もやっている。ゲートボールやグランドゴルフを見た方がいいのか。

報告書を読んだが、健康づくりのために体操などをやるようにと書かれている。老人クラブには生き生き体操ができ、音楽も完成し、定例会などで必ず体操をするようにと言っている。私のクラブでは、毎回体操をしている。

手塚 地域で健康づくりに取り組む団体の活動の視察ということですから幅が広い。

末兼 どう健康維持推進に取り組むのか、ある程度方針を出してから視察しないと、ばらばらに行ってもおかしい。高齢者を何歳以上にするのかにもよる。

綱川 65歳以上だが、65歳にならなくても、手話やゲートボールを習いたい希望の人は入っている。

末兼 健康維持推進をどうとらえるか難しい。医学的にとらえるか、単純に体操をしますというものか。

手塚 町会や社会福祉協議会の取り組みと書いてあるが、町会の取り組みで何かあるか。

小林 やっているところはあると思うが、視察するのは難しい。かなり町会単位でいろいろな健康づくりをやっている。横の連絡はほとんどない。一本化できればいいと思う。

手塚 南河原公園で毎朝ラジオ体操をしている。健康づくりの長く継続している活動だ。社会福祉協議会関係ではあるか。

小林 地区社協でやっている。区社協はもっと大きなまとまりだ。

手塚 リハビリ関係で何かやっているところはないか。

萩原 リハビリというと、西地区社協で実施している。ただし、障害者が対象になっている。各教室に30名、40名が来ているが、健康づくりではなくリハビリだ。

手塚 健康づくりとは少し違う感じがする。

末兼 市民館で太極拳などいろいろある。区民会議でどう取り上げて、医師会の先生もいるので、どうアドバイスしていけるのか。健常者に対してどうアドバイスできるかが問題になる。

綱川 十人十色で各自が好むことがある。手話を習うのが好き、グランドゴルフが好きなど人によって違う。好むことを継続的にやっていけるよう持って行っている。そして楽しくやる。楽しさの中から、生きがいと健康づくりがついてくる。

末兼 それを全体的にどう大きく伸ばしていくか。勝手にやっているのではなく、医師会の方がこうするともっとよくなるよといったことを伝えていくのが区民会議の役割だ。

荒井 具体的にどうやるかはそれぞれ自分の体力や体調、年齢に合わせてやればいい。根本的にこうすることがいいということを押さえる。その啓発の一環として、3月8日に講演会を行う。

末兼 区民会議としてお願いしますよという形がとれるといいんですが、今は個々に話を持っていっている。その辺の議論をもう少しつめて、講演会をこういう風にするとか、もっていった方がよい。

荒井 幅が広いので一概には言えないが、今回は、骨と歯から講演に入る。以後どうなるかは不透明だが、アンケートがそこに生きてくるのだろう。人間いろいろな部分があるので、シリーズでやらないと網羅できない。

手塚 骨と歯だと、健康づくりに結びつけるのはどうか。

荒井 骨は運動に大事だ。どういう運動をすればいいか。ころばないようにするという話しを今回するが、どういうことに気をつけつつ、体操すればいいかアドバイスがある。

綱川 アドバイスする立場だが、難しい。

手塚 ラジオ体操など朝早いので、視察に行くのは無理だ。太極拳を日吉の方でやっているようだ。そういったものは見学の対象になる。

綱川 太極拳もいいし、他にもある。アドバイスといっても、とにかく見ないとわからな

い。

末兼 一つずつのアドバイスは区民会議ではできない。

小林 区民会議では方向づけをする。今はばらばらにやっている。横の連絡がまったくないものを、区民会議で周知するような方法がとれるかどうか。今回の先生の講演会も、あまりにも日がなすぎ。日がもう少しあれば宣伝できる。もっと時間が欲しい。

荒井 今回はちょっと忙しかった。

手塚 申し込みはすでに一杯らしい。

小林 今までも歯科の先生に講演会をやってもらったことがあるが、数人しか来ないこともあった。先生に申し訳ないし、企画する方もそれではダメだ。大勢に聞いてもらわないとダメだ。

末兼 事務局でピックアップしてもらい、その上で決めないと、ここでどこに行くというのは難しい。

手塚 情報を持っていけばいいが、わからない。役所で適当なところをあげてもらい、その中から選ぶのでどうか。

末兼 老人クラブの年間スケジュール、町内会のスケジュールを出して、それを検討するという方法もある。

小林 視察したからどうということではなく、個々にやっているのをどうまとめられるかを検討すべきだ。

手塚 役所の中に担当している係があるので聞いてもらう。

高橋（事務局） 実際に地域で活動している団体の状況を把握しようということで、この間、老人クラブの取り組みは綱川委員に詳しくお話いただいたので理解は深まったと思う。他にも地域で高齢者の健康づくりに取り組んでいる団体があるので、より現場に近いところを見てもらい、議論をしてもらえればと考えている。

「身近な地域での健康維持・増進の取り組み」については、小林委員からもあったように、身近な地域で交流する場、触れ合う場が高齢者の健康づくりには重要であり、その場がどういう現状にあるのかを、老人クラブの取組みにあわせ、他の団体の取組みも見て貰えればと思っている。このテーマに取り組むときに、地域保健福祉課長が説明に来たが、その際、幸区の中で健康づくりに取り組んでいる団体のリストを示している。リストに基づき、いくつかピックアップして、段取りを固めるという流れで考える。

一同 了解

末兼 医師会でも地域の健康づくりに取り組んでいるのか。大きな病院などがこういう取り組みをしているか。

荒井 やっていない。市民の間に入ってやることはない。たとえば社会福祉協議会からこういうテーマで話してくれとあったときに行くだけだ。

綱川 お医者さんを講演会に講師としてお願いするときは、どの方をお願いしていいかわからない。皆さんに聞いてお願いしていた。認知症はこの先生と教えてもらおうと、その方をお願いする。今度荒井さんを知ったので、お願いできればと思う。

荒井 組織、団体から要請があったときだけで、こちらで主催することはない。

綱川 老人クラブへ川崎区から幸区でやるから人を集めてくれなどと来る。どの話を聞いても、役所でやることなのでいい話ではあるが、あまりあちこちから人集めの話が出る

ので、もう少し統一されればいいなと思う。

手塚 この件については、もっと情報を把握していれば、ここを出したものをリストアップできるが少ないようなので、役所で把握している情報をまとめてもらい、その中から選ばせてもらう。今日決めるのはちょっと無理だ。

綱川 つい先日会長研修を終え、一年間を振り返って報告をしてもらった。いろいろな質疑応答があるので、そんなときに見てもらえるとよいが、これは年度の最後にやることなので、来年になる。

葉山 健康で生きがいのある地域とはどういうものなのか。

末兼 イメージがばらばらだ。65歳以上となると、では若い人はどうなんだとなる。それを踏まえ、このアンケートでは若い人にも聞いている。

葉山 いまいちつかめていない。

手塚 内容を見ると、高齢者に絞られている。

綱川 やはり高齢者に重点を置く。若い人はそれなりに健康な人が多い。

手塚 今回一緒になってやってもらえるのは高齢者で、若い人は難しい。かなり思い切ったことを計画しないと、中途半端では若い人は参加しない。

末兼 次の部会までに事務局にピックアップしてもらうが、われわれがどういうイメージを持ち、どういう方向に持っていくのか整理しないといけない。

葉山 講演会も健康で生きがいのもてる地域づくりだし、体操やバレーボールも一つの健康づくりだ。視察を実施するとなるとなおわからない。

手塚 具体的にイメージがわからない。

高橋（事務局） 資料4に健康で生きがいのもてる地域づくりとあるとおり、幅広いテーマなので、どういうことをイメージに持つのかを前回から議論してもらっている。高齢者の方にポイントを絞っていこうということが前回から出ていると感じている。健康で生きがいの持てる地域づくりで、検討項目の1、2にポイントを絞った。身近な地域で健康を維持する取組みをどうやって後押しできるかにポイントを絞った。その一つとしては、老人クラブの活動が進んでおり、その活動内容は皆さんよく理解した。高齢者が地域で日ごろからふれあい、交流する場が重要という視点で議論されている。今回の視察では、老人クラブの活動に加え、それ以外にも多様な活動があることを生で見ることが、議論を深めることになる。ご意見により区役所で候補を絞る。

健康で生きがいの持てる健康づくりでは、高齢者が情報を求めているが、それが十分に提供されていないという話があった。必要な情報をどう発信し、伝えていけるかを整理する。情報の出し方、どういう情報を求めているかを整理する必要がある。

今回、荒井委員から、医師会が他と協力するというスタンスを出していただいたことで、協力をいただいて、今回区役所の事業として講演会を開催する。こういった取り組みをしながら、高齢者がどういう情報を求めている、どう伝えればいいのか、情報発信のためのニーズを把握し、部会に情報提供する。

この2項目にポイントを絞ってきている。今回はそれをさらに具体的に進めるかということで、視察を行い、アンケートで聞いたことを次の部会に結果を生かす。幅広い議論がだんだんと絞られている。区民にわかるような形で具体的な議論をしてもらえるとよい。

荒井 健康づくりを幅広く考えていたが、対象が高齢者となってきたので、方向転換をした。なぜ高齢者かという、幸区の高齢者は川崎区について多く、さらに増えている。幸区の人口動態を見れば高齢者が多いから、健康づくりと言ったときに、まず高齢者を取り上げる。という論理でいいのではないか。次に若い人たちというのであれば、若い人の問題をくみ上げるようにすればいい。

区民会議の概要、43 ページの 5 を見ても、高齢者に対する対応に今回テーマになっている。年齢を広げることは、ここから逸脱する。最初から高齢者ということで話が進んできているので、今回は高齢者に絞ってやるべきではないか。そうしないと焦点がぼける。どういったことが健康にいいのかと聞かれるが、一言では言えない。絞っていかないと焦点がぼけるし、ある一点でいいから印象づけ、役に立つ、くっきりしたものを発信してやっていくべきだと思う。今回は高齢者に絞って、その中で何ができるかを議論されてきたので、ここに来て年齢をどうするかというのは少し違うのではないか。

手塚 今までの議論から考えると、高齢者の健康に絞って考えていくという方向づけでどうか。それについて、リストアップをお願いする。どこを視察するかについては、次回に検討しよう。

次に 8 日の講演会に集まった人からアンケートをいただくということだが、内容はこれでいいか。

葉山 設問 1 は、「はい」と言った人を中心とするアンケートのようだが、「いいえ」の人を対象にした設問はできないか。区民会議について知りたくないとか、もっと知りたいなどを聞く。「いいえ」を重視したアンケートの方法をとれないか。「いいえ」といった人に対してどうするか。それを増やす方がよい。

手塚 確かにそのとおりだ。「いいえ」といったら切り捨てでは問題がある。

末兼 事務局とすれば、全戸アンケートを実施しているから、まず「いいえ」は 10 分の 1 くらいしかないだろうということではないか。

小林 あれだけ配って、回収数があれではかわいそうだ。

手塚 何が問題だったのか。区作り白書の際は多数の回答があり整理が大変だった。

高橋 「いいえ」の場合何を聞くか。アンケートの案は、区民会議について (1) で聞き (3) (4) につなげる流れの設問。設問 2 は、区づくりアンケートへの追調査である。なぜ回答されなかったのか調査できればよいと考えている。

葉山 「いいえ」を回答した人は、(2) 以下は回答できない。

高橋 (事務局) (3) (4) はできる。

葉山 (2) で、知りたいと思うかを書いてもらいたい。

綱川 どのようなことがあれば傍聴しやすいかの設問はある。

手塚 何回かやっているのでは、1 はいらぬ気がする。改めて、いつも区民会議を知っているかを聞く入り方でなくてもよい。

末兼 資料 2 をつけて、中間報告がまとまりましたといってアンケートをすれば、いい PR になる。

北谷 (事務局) (1) は、ここで区民会議を知ってもらうことが一点と、(2) で回答を増やすことで、いいえの人もハイになるだろうという力点を置くことの検討素材になるという考えである。

手塚 「いいえ」は別に返事をもらわず、カットしてよい。

葉山 「いいえ」を拾い上げたい。資料2と一緒に付けるのは効果的だ。

手塚 講演会でも配ってもらう。

高齢者の健康づくりの設問はどうか。とくに問題がなければこれでよいか。アンケートの内容については、設問1の(1)をもう少し何とか考えていただくということで、あとはいいか。私は「いいえ」という返事を出さなくても済むような形で、次の設問に入っていると思う。

葉山 傍聴できるかということを中心に強調したアンケートなので、このままの方がよい。

綱川 「いいえ」の数は知りたい。

末兼 今回のアンケートはターゲットが決まっているので、この内容でよい。

手塚 それでは原案とおりとする。

4. その他

(1) 健康づくりふれあい講演会について

事務局(高橋)から3月8日(木)に幸区役所主催で開催される「健康づくりふれあい講演会」の内容について説明があった。

(2) 幸区地域防災計画(案)について(情報提供)

事務局(大八木課長)が区の地域防災計画(案)について、情報提供という形で概要を報告した。

手塚 これについてはページ数も多いので、ゆっくり内容を検討していただきたい。これをすべて読むのは大変なので、すぐ役に立つ肝心なことをピックアップしてまとめることができないか。

大八木 全戸配布をしているパンフレットがある。防災ハンドブックはよくできているがわかりにくい点もあり、時代によって考え方が変わった点もある。委員会の論議を受けて新たに「備える」という冊子を作成した。

地震に強い家づくり、火の始末、風水害にどう備えるか、各家庭で3日分の食料を確保するといったことも書かれている。議論を踏まえて作成したので、まず冊子を見てもらい、さらに行政のやることとして、「幸区地域防災計画」を読んでもらえるとよい。冊子は、昨年9月に全戸配布した。

末兼 読んでもわからない。役所の責務と書いてあるが、責務があればその裏もある。

1 ページに区民の責務とある。区民の責務が果たされていなければどうなるのか。自主防が大きく取り上げられているが、自主防もボランティアと同じ。一人ひとりの責務で、お前は自治会に入っていないから来るなという議論も成り立つ。避難所の収容人員について、22 ページに食料の供給対象者と書かれているが、避難所は災害弱者、要援護者が優先される意識があり、その前提で議論してきた。役所とすれば避難してきた人は一律に扱わないといけないということで、旅行者などと書かれている。そういう人たちが避難した時にどういう対応をするのか。避難所という考え方が、役所とここで意見交換された避難所の中にギャップがある。ロードマップが示されていないので、どういう進め方をするのか。避難所はどのような性格をもち、どうするのか。自治

会費を納めた人しか入れない、弱者と要援護者しか入れないとなったらどうするのか。
大八木 自主防で運営会議をつくれとは書いてない。自主防を中心にいろいろな組織を束ねてやってくれということなので、自治会に入っていない人は入れないということではない。まず安全を確認し、本当に必要な人だけ避難してもらおうという考え方を持っている。この計画の多くは、行政が何をするかという部分で、皆さんに何をしてもらうかは「備える」という冊子にも書かれている。今後、区民へ向けるマニュアルも作成しないといけないと考えている。この計画によって、ほとんど知られていなかった行政の担う部分を知ってもらおうという考えに基づいている。

末兼 自助と公助についてはそれでいい。自主防とボランティアという言葉も使っているし、運営委員会でやれということも書かれている。2000年に介護避難所をつくれという指示があったが、それも書かれていない。

大八木 二次避難所の問題、要援護者避難などの問題については、別に案を作成している。副部長が言われた部分は市全体でやる内容。ここにまとめたのは主に区でやる内容。計画に書かれたことをいっぺんにはできないので、見えた部分から制度を作っていくことになる。

末兼 協働の案なら、啓発などという言葉は使わない方がよい。弱者や要援護者をどうするのか大きなギャップがある。

大八木 一次避難と二次避難について触れていないので、その点を言われていると思うが、計画だけでなく、また別の論議が必要と思う。

手塚 時間の問題もあるので、また検討しよう。

(3) 区民アンケート速報結果の全戸配布について
事務局(高橋)から概要を報告。資料1の4を参照。

〔次回〕

4月19日(木) 18時、第1会議室で開催